



学指通信

小中合同授業研を終えて

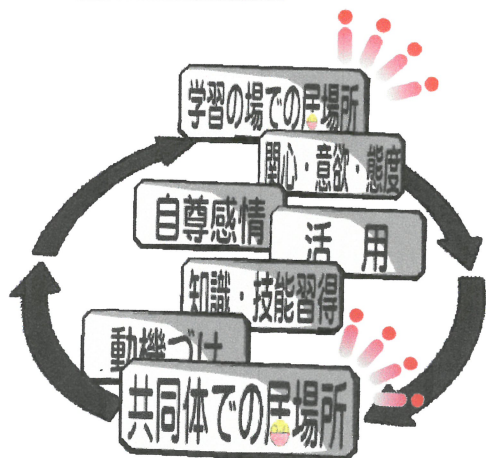
全員参加の授業ができた理由

授業 MAP に

目標の動機づけがあった

生活共同体（クラス・班）に

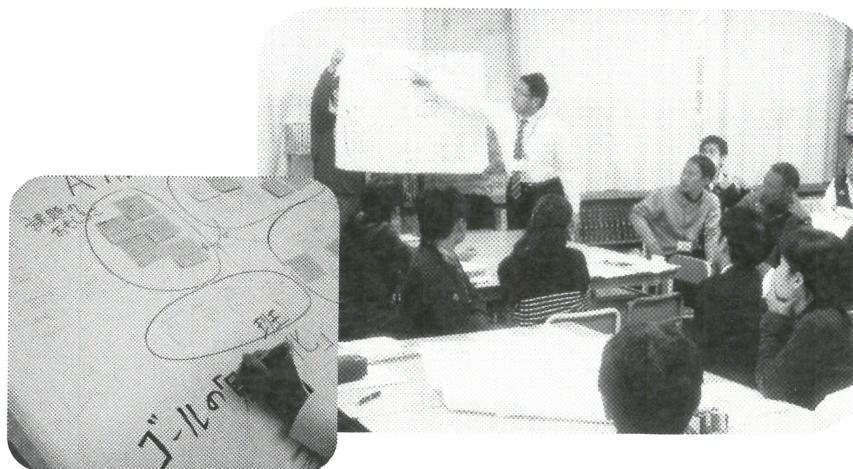
居場所があった



チャイムと同時に号令がかかり、礼の後は先生の第一声。本時の活動のねらいと流れの説明のあとは、一人で「考える」時間と、みんなで「伝える/聴く」の時間。本時の「振り返り」は、次の授業につながるものとなっていました。門田指導主事がおっしゃっていたように、本校が数年かけて取り組んできた授業づくり <J-MAP (J4+J3)> の成果を確認できた授業でした。(詳しくは11月27日に発行された「校長だより・深谷先生の授業から学ぶ」を参照してください)

「〇〇さんが班活動に参加していた」「△△くんの笑顔がよかった」等々の感想も多くきかれましたが、そこには次の2つのポイントがあります。一つ目は、目標提示の際に明確な動機づけがあったこと。本校では以前から「つかみ」という言葉を使っていましたが、その「つかみ」が生徒一人ひとりの「面白そう」(興味)「やってみよう」(意欲)「やれそう」(自信)につながっていたことです。もう一つは、クラス・班が一人ひとりの居場所になっていたことです。学級・班の安全・所属欲求が満たされてはじめて、学習は成立するということを、ここで再確認したいと思います。

他にも、たくさん教えられることの多い授業でしたが、まずはモチベーションをあげ、生徒の気持ちをググッとひきつける(=課題生の顔が上がるのをイメージした)導入を意識してみましょう。



研修会の様子。若手先生たちの意欲的な姿勢が印象的でした。